

厳しい環境を乗り越えてこそ価値がある 苦境に立ち向かうメタルドゥ

2016.07.11 17:16

BI 0 いいね! 0 G+1 2

国内レアメタルリサイクル大手のメタルドゥ（本社：大阪市西区 山頼敏彦社長）の2015年度（2015年3月～2016年2月）決算（第37期）は主にニッケルはじめとしたレアメタル相場下落、評価損が生じたことから赤字決算となった。売上高も122億円で前年度比26%の減少となった。

2015年度は川上から川下まで金属関連産業には逆風が吹きつけたが、メタルドゥにとっても厳しいシーズンだった。と過去形になっているが、今もまだ厳しいシーズンは続いている。前藤田政権から社長業を継承して4年目の山頼体制。難しいかじ取りが迫られている。

かつてなく厳しい経営環境

昨年8月以降に鮮明になった中国経済の失速、これに伴う金属価格下落は金属に係るサプライチェーンすべての業種に大打撃となり、リサイクラーも例外ではなかった。

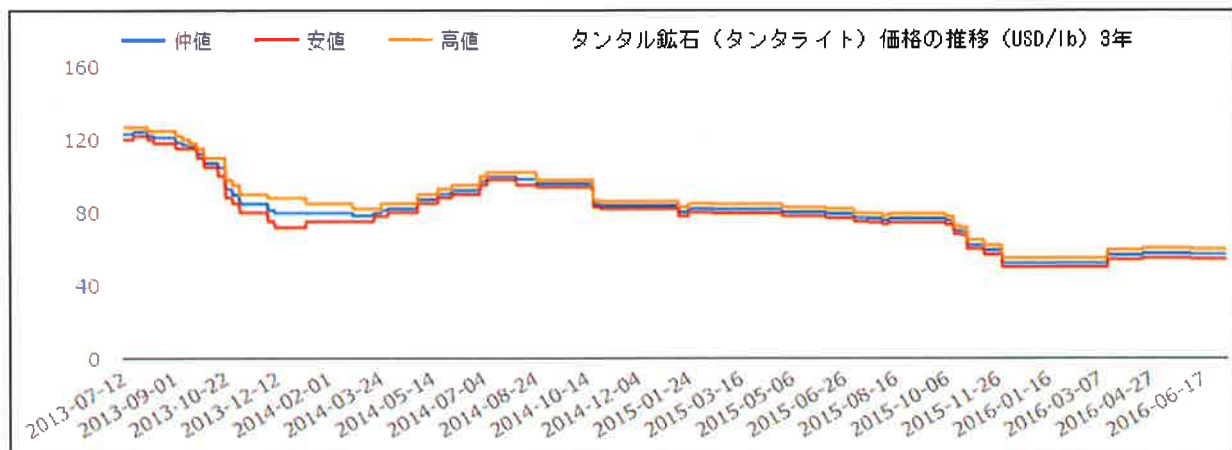
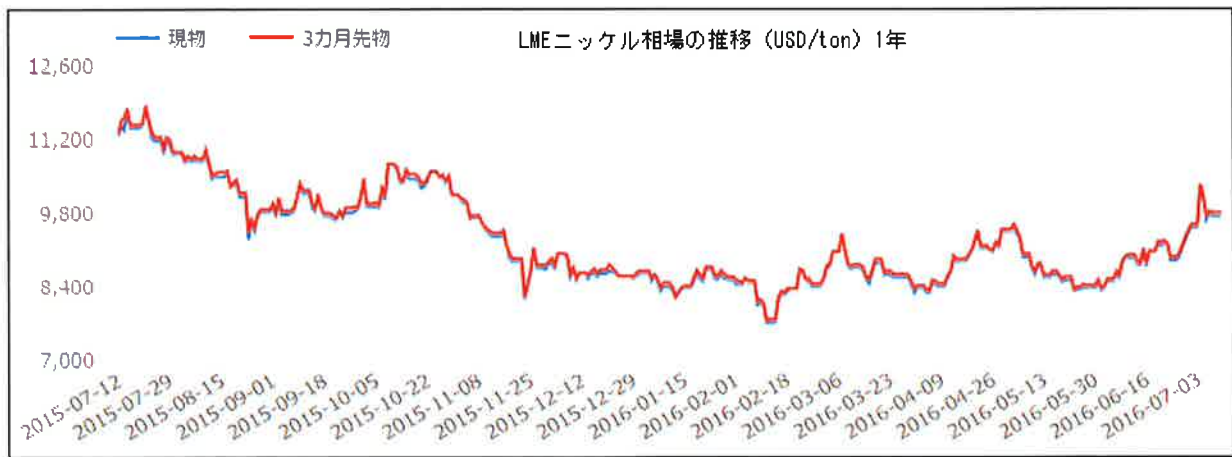
相場下落だけではない。集荷量の減少もとりわけ近年は深刻化しており、国内リサイクル業の経営環境はかつてなく厳しい。



「37期の期首はまだニッケル相場がトン14,000ドルあったが、15年夏に10,000ドルまで落ち、16年2月には瞬間的に8,000ドルも割り込んだ。売り上げの半数以上がニッケル系である当社にとってこのニッケル相場下落はかなり響いた」（山頼社長）

加えてメタルドゥにとってマイナスが大きかったのがタンタル。

それまで比較的収益率の高いタンタルスクラップだったが、昨年10月からタンタル相場が急落。タンタル鉱石の供給過剰感が表面化したことからタンタル鉱石価格もポンド100ドルを割り込み、70ドル台まで急落。加えてタンタルスクラップの狼狽売りも重なって一時はキロ当たり4万円をつけていたタンタルスクラップ（PINスクラップ）もキロ2万5千円まで下落。このタンタルスクラップの在庫評価損も今回の赤字の大きな要因となった。



このニッケル系、タンタルのみならずチタン、タングステンといったメタルドゥの主要な扱いアイテムのレアメタルスクラップは軒並み下落し、需要減も重なり先述したようにメタルドゥにとって、また他のレアメタル系スクラップディーラーすべてにも共通するところだが2015年は危機的な状況が続いた。

2016年も始まって半年が経ち、ようやく大底からは抜けだした感はあるが、大幅な相場上昇とはいえず、環境的には昨年とほとんど変わっていない。

こうした状況下でメタルドゥの今期（38期）はどう戦っていくのか？

「今期（38期）のV字回復はない、とみている。予算計画をたてていたときから16年の8月までは苦戦が続くと予想していた。今期売上げは110億円、経常利益は1億未満、とかつてない低収益を予想している。それほど厳しい状況だという認識」（山類社長）。

しかし足元では光明も差している。6月は月次としては久々にプラスとなり、予想以上の結果を残すことができたという。

それでも新たな不安要因として為替の円高がある。当初は108円～110円の為替予想だったが、7月現在は100円際という円高水準で推移している。また荷動きは悪い



状態が続いている。これは国内の産業経済活動の低下もあるが、海外でも相場が悪ければ物は出てこない。相場の低位安定～物量停滞という悪循環はまだしばらく続くとみている。

ITバブル崩壊、リーマンショック時よりもきつい現在

「08年秋から09年初めのリーマンショックのときよりも今回はきつい。またリーマンショックの前には2000年～2002年もITバブルの崩壊でニッケル相場がやはり8,000ドルまで下がったことがある。そのときのメタルドゥ（*当時は大阪商事時代）は従業員も20名程度だったが現在は80名。大所帯になっているが、この困難な時期、これから2年、3年続くのかもしれないが、人も設備も減らさず、乗り越えていくつもり」（山頼社長）だという。

すでにレアメタルリサイクルの世界でも体力勝負に入っている。相場が上がれば誰しもうまくいくが、現在のような低相場時代を生き残ってこそ企業として本当の力がつく。まさに真価が問われる2～3年になるだろう。

そのためになにをすべきか？

「私が常々社員に言っていることは、一人一人が創意工夫をして成長してもらいたい、ということ。会社は一人でやるものではなく、個々の結集。人が財産。リサイクルの高付加価値化とスーパーアロイの拡販、海外営業の強化で、この苦境に立ち向かっていく」（山頼社長）。

藤田國廣というカリスマ社長から継承して4年目の山頼社長は今年56歳。現場を熟知した生え抜き社長は数々の修羅場も高原市況で大きく成長した時代もすべて知っている。

新しい世代が力をつけていくことが大事だと常々語っていた藤田前社長の願いは現在進行形で叶えられている。現在のようなある種八方塞がりの厳しい状況を、時代を乗り越えたとき、メタルドゥは世界的にも屈指といえるレアメタルリサイクラーの地位を獲得していることだろう。

(IRUNIVERSE Y.Tanamachi)